

ニュースレター第 10 号をお届けいたします。今号は樋野先生のお言葉と今月韓国でカフェを開設された平田様のお言葉、そして韓国に同行したスタッフの青木、森が担当します。

『懸け橋』 ～ 『速効性と英断』 ～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）



『お茶の水（OCC）メディカル・カフェ』は、東日本大震災の 2011 年に創設準備がなされ、2012 年に当時 OCC 副理事長であった今は亡き榊原寛先生が始められた。来年（2024 年）『12 周年記念誌』が製本されるとのことである。

2023 年 10 月 31 日、羽田空港から韓国のキンポ空港に向かった。韓国のミョンジ（Myongji）大学の平田尚子先生の企画の『第 1 回 メディカルカフェ in ソウル：樋野興夫博士招待』に赴いた。平田尚子先生のご主人の Ha, Heon Ju 教授の同時通訳で『病氣であっても病人ではない ～ 解決はできなくても解消はできる ～』の講演とカフェの機会が与えられた。多数の参加があり、大変充実した時であった。来年『1 周年記念シンポジウム』の開催が決定された。まさに『速効性と英断』である。

今回の企画は、平田尚子先生、Ha, Heon Ju 教授、息子様が、以前に『御茶ノ水の OCC の『がん哲学外来』お茶の水メディカル・カフェ in OCC』を訪問されたのがきっかけであった。そして、OCC カフェのスタッフの青木美由紀氏、森尚子氏も、今回の『韓国の旅』に同行された。青木美由紀氏、森尚子氏は『水戸黄門の「助さん、格さん」』でなく、『モーゼの「アロン」と「フル」』（出エジプト記 17 章 10～12 節）とのことである。ただただ感服である。

今回の OCC のニュースレターには平田尚子先生と『水戸黄門の「助さん、格さん」＝モーゼの「アロン」と「フル」』も寄稿されるとのことである。『日本と韓国の懸け橋＝OCC カフェ』を実感する貴重な『ソウルの旅』となった。



第1回メデイカルカフェ in ソウル 2023年10月31日3時より

<病気であっても病人でない>ー解決できなくても解消ー



樋野先生をお迎えして

平田尚子

すべては、10年前の青木美由紀さんの種まきからはじまりました。「尚子さん、もし良かったら、ガン哲学外来メデイカルカフェに、いらっしゃいませか?」温かな声でお誘いをうけ参加させていただき、ただ一人の人間として、深く慰められた経験をしました。そして韓国に帰るなり、善は急げとすぐにソウルで始めようとカフェの申請をしましたが、なかなか周囲の理解をえることができずカフェの開催もできずに時間が過ぎてゆきました。

百聞は一見にしかず、今年思い立って OCC のメデイカルカフェに夫と長男をともなって参加させていただいたことが、引き金となって、種まきから10年目の今年、韓国ソウルでの<第1回メデイカルカフェ in ソウル>を樋野興夫先生と青木美由紀さん、森尚子さん、をお迎えしてはじめての一步を踏み出すことができました。チラシの制作は長男が担当してくれたためにあっという間にできあがり、樋野先生の著書のなかで3冊すでに韓国語に翻訳されていたので大学の授業でも紹介し、必要なひとにはプレゼントしながら、「メデイカル カフェをします。」と一人一人に呼び掛けていきました。

グループリーダーは大学の関係者に協力をお願いし、青木さんが送って下さった資料を韓国語に翻訳して勉強会をミョンジ大学の教室で開きました。

韓国はカカオトークが主流なのでチラシと案内状をカカオトークでお送りし、お会いして話せる方には対面してお勧めしました。

前日は大学の講義室が会場になるため、机などのセッティングは当日、総指揮のイ先生に手順など細かいことまでおねがいし、みかんやお茶菓子は息子たちがラッピングするなど、信じられないほどスムーズにことが運ばれました。

座席の配置、ネームカードを準備して当日を迎えました。

<病気であっても病人ではない>

-----解決できなくても解消-----

樋野先生のお話しは

1 度聞いてわからない

2 度聞いてもわからない

3 度聞いて首をかしげて

4 度聞いてうなずく

とおっしゃられたとき

皆さん全員1度にうなずかれ大笑いしました。

そうしながらも

「病気であっても病人ではない」「先生の穏やかな風貌と静かな口調でガンを語られて、ガンにたいする恐れや不安がなくなった」「命は自分のものではなく天から与えられたプレゼント、だからほかの人にもプレゼントしましょう」等のお話しに感動したと皆さん口を揃えて話してくださっています。

グループごとの話し合いは、

マイナス×マイナスはプラスの原理を応用してガン経験者のグループリーダーにガン患者さんを担当していただきました。

(次ページに続く)

ただ決めた通りに座らなかった方がいらしたので本人の希望でかえられたのだと思って放っておいたのですが、後から偉大なるお節介ではない単なるお節介のために計画したとおりにできなかったことなど反省すべきことがわかってきました。是非、つぎにいかしたいところです。

またグループリーダーによって随分と参加されたかたの感動されかたが異なることもこれからの課題となりました。

カフェ終了後、スタッフと一部参加者と樋野先生(モーセとアロンとフル)を交えて 16 名で夕食をとりながら意見交換、また樋野先生から一人ずつ 30 秒で話してくださいということでカフェの 2 次会？もとても有意義な時をもつことができました。

グループリーダーには、グループでの話しを始めるにあたっての<お約束>と歌の歌詞をファイリングしてお渡し、話しを始める時にお約束を読まれたかどうか 4 つのグループを回りながら確認し、後はすべてリーダーにおまかせしました。

実際は、グループリーダーの自己紹介が長く参加者全員が話せなかったグループ、聞き手になりきれずコメントをしてしまったただのおしゃべりになってしまったグループなど、参加なさった方の感想を聞くうちにわかってきました。

みんなで傾聴を学んだのはどこにいつてしまったのでしょうか。

練習の成果は 4 つのグループのうち 2 つのグループに現れた結果となり、学びと実践の積み重ねが本当に大事であることがわかりました。

ふたを開けてみたら目茶苦茶な部分が見えてきた時、夫いわく「目茶苦茶でよかったよ。すべての問題点が一気に表れたから本当に勉強になったね。」と笑いながら話し、早いうちに 2 回目のカフェをひらくことと、参加なさったガン患者の方からもグループリーダーを募集することなどが決まりました。

また、「最初から上手くいつてしまったら高慢になってしまって継続が難しくなるから目茶苦茶でよかったよ」の言葉に励まされ、すべてに感謝しました。

その反面、感動的だったのは、色々なところでの、素晴らしい連携プレーでした。空港にお迎えにいつている間に、スタッフ全員が見えるところ見えないところで自分のことのように動いてくれたこと、そして約束された出席者は全員出席されたこと、何とか都合をつけて当日駆けつけてくださった方、大きな力にグングン引っ張られていくようで、疲れることも知らずに無事にカフェをおえることができましたことはまさにききでした。

小さなカラシだねが大きな木になるように、来年までコツコツとカフェを開きながら私も種まきをしてゆこう。そう決心しました。樋野先生からいただいた 3 冊の本、まずは日めくりから翻訳をひとつずつ丁寧にはじめています。

OCC をはじめ市民学会の方々、コーディネーター養成講座のグループリーダーをはじめグループの方々の応援とお祈り、何よりも、お忙しい中、「はい参ります。」と快くひきうけてくださった樋野先生に心から感謝申し上げます。

モーセの祈りを両側でささえたアロンとフルのように先生を支え自費でくださった、偉大なる助け手の青木さんと森さんに、10 年の間、愛と祈りを持って励ましてくださった青木さんには感謝に絶えません。愛と希望に満ちた<ファーストコンタクトの場>を目指して一步一步、時々半歩？主のお導きにお委ねしつつ来年のシンポジウムでの再会を楽しみにしています。

ソウルから心からの感謝と愛を込めて、報告そしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ソウルよりシャローム



メディカル・カフェ in ソウル 報告

青木美由紀

10月31日 樋野先生と森尚子さんと金浦空港に到着した。平田尚子さんとご主人の河 憲柱（ハ フンジュン）氏とミョンジ大学の教授が溢れる笑顔で迎えて下さり、韓国での初めての開催という緊張した心が解された。2台の車でミョンジ大学に向かった。15時オープニングと挨拶、司会平田尚子氏による挨拶、ミョンジ大学 イ ジェボン教授 が「このカフェの開催により大学が発展することを望む。一般社会人に対する教育、研究が進んでいくようにメディカル・カフェの発展を望む」と挨拶された。樋野先生の講演、ハ フンジュン教授の巧みな同時通訳に皆さん熱心に聞き入っていた。「喜び」「愛」「回復」「希望」と書かれた各テーブルにバラの花がステンシルされたネームプレートと袋に入った韓国のお菓子とペットボトルが置かれ、心のこもったおもてなしを感じた。テーブルには5～6名の方が座られた。ファシリテーターからの自己紹介でカフェが始まった。時に涙、時に笑いありと話すことばはわからなくても皆様の愛と熱意が伝わってきた。16時40分に各グループの話をシェアし樋野先生のまとめのお話、ハングルと日本語で書かれたアリランの曲を声楽家である平田さんのリードの元「カムサヘヨ」「ありがとう」「サランヘヨ」「愛します」を歌った。スタッフの皆さんの温かなおもてなしに心から感動し、平田さんと河さんご夫妻がこれからも韓国と日本を繋ぐ平和と愛の橋渡しをするカフェの働き手となることを確信した時となった。

メディカル・カフェ in ソウル に参加しました。紅葉の美しい時期でした。皆様との良き思い出と、来年の1周年を楽しみにしています。
森 尚子

